



外に向けて
発信する人が必要

Youichi Yamaura
山浦陽一 さん
東京都出身、32歳。大分大学経済学部准教授。農学博士。研究・教育・地域連携の相乗効果などに関心を持っている。豊後大野市緒方町在住。



花でお客さんを
呼べるかも

Shinji Kawano
川野慎司 さん
津久見市上青江、37歳。津久見市観光協会統括課長。1995年入行。2011年からまちづくり推進課で観光協会の業務援助に携わる。



石灰を利用した
商品開発に
チャレンジ

Tomokazu Tanaka
田中友和 さん
大分市出身、36歳。現在は津久見市在住。2000年に大分大学大学院工学研究科を修了し、古市川産業入社。研究員として活躍している。



保戸島が潤い、
雇用も増やしたい

Masahiro Kanzaki
神崎公宏 さん
津久見市保戸島、45歳。穂門ノ郷メンバー。1986年に全国漁業協同組合学校を卒業し保戸島漁協に入社。現在は県漁協保戸島支店勤務。



高齢化が
進んでも
住み良い町
ならない

Kenji Ono
小野健司 さん
津久見市徳浦宮町、31歳。津久見市まちづくり推進課政策企画班主任。2003年入行。現在「まちづくりとは」を自問自答する日々を送る。



ミカン山も
観光資源に
なるのでは

Jun Odanaka
緒環潤 さん
臼杵市出身、34歳。つくみイカ島の物産館を経営するTSUKUMI BRANDの統括マネージャー。今後の津久見市の観光動向が気になる。



オーロラマグロを
商品化しましょう

Koji Ikagawa
五十川浩司 さん
津久見市入船西町、38歳。津久見市農林水産課主任。1997年入行。下水道課、税務課、福祉事務所を経て3年前から農林水産課勤務。



生マグロを
市内の飲食店で
出したい

Shigeru Miki
三木繁 さん
津久見市津久見、42歳。保戸島出身。元は遠洋漁業の漁師で、現在はマグロ加工のカスガ水産勤務。津久見商工会議所青年部長。



伝統の継承と
革新をうまく
融合させて

Kyosuke Kawano
川野恭輔 さん
大分市、41歳。1993年大分銀行入行。2000年大銀経済経営研究所に出向。現在は同研究所主席研究員。長寿企業の経営戦略について研究している。



評判を上げるためには
ブランド化が重要

Nobuhiro Torigoe
鳥越宣宏 さん
津久見市徳浦、40歳。日本漆喰協会幹事長。丸京石炭専務。しつこいを扱うメーカーとして伝統素材の伝承に力を入れている。



担い手不足は
収入が安定しない
のが課題

Masakazu Toda
戸田正和 さん
津久見市四浦、39歳。県漁協津久見支部青年部長。2004年戸田水産入社。魚価の低迷や担い手不足など地元漁業の課題解決に取り組む。



昼食付き
イルカ島入場券を
作っては

Shiro Yamada
山田志朗
大分市、39歳。1997年大分合同新聞入社。整理部、社会部、以珠支局を経て別府支社編集課課長。今回津久見の味と魅力を堪能。いつか赴任したい。



鉱工業と観光と
まちづくりは
一体関係

Keisuke Tomonaga
友永敬介
別府市、39歳。1995年大分合同新聞入社。別府、佐伯両支社編集課、社会部などを経て報道部課長。津久見できよるの次に買おうべき土産は何…?



幸せを感じる
津久見を
つくって

Yasuhiro Yamamoto
山本康裕
津久見市出身、42歳。1993年大分合同新聞入社。販売部、整理部を経て同部課長。休校中の母校、日代小・中学校の復活を夢見ている。



大きいビジョンが
何となく
見えてきた

Tatsuya Iwasaki
岩崎達也 さん
津久見市津久見、48歳。ミカン生産農家。1983年に常緑果樹試験場を卒業。06～06年、津久見市農協指導課に在籍。97年から就農。



動物とたくさん
触れ合える
施設を目指す

Toru Kumashiro
熊代徹 さん
兵庫県出身、43歳。大分市在住。1992年マリナーズに入社。2009年からイルカ島に勤務。現在は本社でイルカ島の営業企画を担当。



ナイトクルーズは
いけると
思いますよ

Keisuke Kamo
加茂恵介 さん
津久見市千夜、44歳。浜茶屋専務。地域の自然や石炭、しつこいの文化に興味を持ち、お石炭探検団の活動などを通して広く情報発信している。



「癒やしの島」の
フレーズは
使えそう

Shuji Muraoka
村岡修治 さん
熊本県出身、48歳。JT B九州大分支店長。1987年日本交通公社(現JT B)入社。熊本支店、九州本社、海外旅行部などを経て大分は2回目の勤務。

地域の未来を熱く語ろう。

大分合同新聞社が、「地域や人々とのつながりを大切に、長期的なビジョンを共有しながら一緒に地域の未来をデザインしたい」との思いでスタートさせたプロジェクト・ミライデザイン会議「ハビカム」。第2弾の津久見市編が4日、市民会館などであった。農業や漁業、鉱工業など特色ある産業が発展してきた津久見市。昨年は観光業にも力を入れている。同市の将来を担う若手リーダーと同世代の大分合同新聞社員らが、テーマごとの分科会や総括会議を通して熱い思いをぶつけ合った。「農業・漁業(コーディネーター/山本康裕)」、「鉱工業(コーディネーター/友永敬介)」、「観光産業(コーディネーター/山田志朗)」をテーマにした三つの分科会には、さまざまな現場で活躍する30～40代の若手リーダーが4人ずつ出席。外部アドバイザーやコーディネーターの記者と共に地域の未来について議論を深めた。その議論の内容を分科会ごとに紹介する。総合アドバイザーはイラストレーターの中野伸哉さん。総合コーディネーターは田崎啓三・大分合同新聞社編集局文化科学部長。

主催/大分合同新聞社 共催/津久見市、津久見商工会議所 特別協賛/国立大学法人大分大学 大分銀行 協賛/(株)NTTドコモ九州支社大分支部 日本たばこ産業(株)熊本支店

総合アドバイザー



Shinya Nakano
中野伸哉 さん
国東市、イラストレーター。ニューヨーク、シドニーなどで創作活動をした後、神奈川県川崎市へ。1999年国東市に工房「ラ・パロマ」を設立。

総合コーディネーター



Keizo Tasaki
田崎啓三
大分市、44歳。1991年大分合同新聞入社。社会部、竹田支局、経済部、日田支社、文化科学部を経て同部長。石炭石で、もうひと山当てよう!

総括会議の様子は3月24日(土)の朝刊をご覧ください。

ウェブ <http://www.oita-press.co.jp> スマホ <http://www.oita-press.co.jp/h-come/>

大分銀行は、豊かな自然と
潤いのある生活をサポートします。



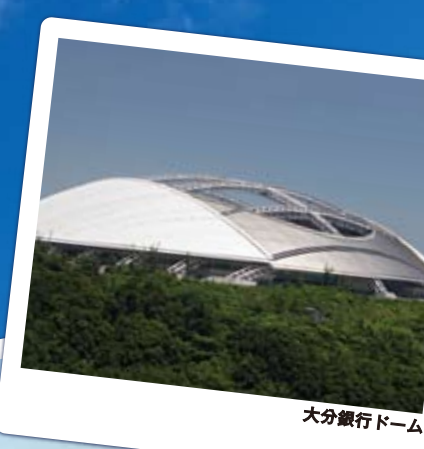
環境活動(大分銀行の森づくり)



やまざくらグラウンド・ゴルフ大会



だいごんサッカー教室



大分銀行ドーム



府内戦紙



ユニバーサル・サービス体験実習



べつだいウォーク



電気自動車・電気スクーター



電気自動車



ウェンズディコンサート